IKI CITY IKIKOKU MUSEUM

関係各位

令和３年６月29日

開催のお知らせ

壱岐市立 一支国博物館

一支国博物館では、来たる令和3年7月16日（金）より9月12日（日）まで、第55回特別企画展「広重展　東海道五拾三次と雪月花　叙情の世界」を開催する運びとなりました。

江戸時代後期の浮世絵師、「歌川広重」（寛政9（1797）年～安政5（1858）年）が世に送り出し、言わずと知れた名作「東海道五拾三次」。 広重の魅力は、何と言ってもその臨場感あふれる風景画の上手さでしょう。単なる風景画を越え、作中に登場する人物が主役となり、その土地の生活、移りゆく四季折々の自然や風物を、詩情豊かに謳いあげます。

本展覧会は、広重の代表作「東海道五拾三次」を中心に、壱岐を描いた《六十余州名所図会　壱岐志作》（安政３（1856）年）や、希少な肉筆画なども展示いたします。

つきましては、別紙のとおり、概要をお知らせいたしますので、ご多忙中とは存じますが、ぜひお誘いあわせの上、ご来場くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

東海道五拾三次

《東海道五拾三次之内　日本橋　朝之景》天保4(1833)年頃

《東海道五拾三次之内　沼津　黄昏図》天保4年頃(1833)

日本の風土の美しさを求めて旅した広重。
広重が描いた日本の原風景は、
私たち日本人を郷愁へと誘い、
新たな日本を見せてくれるに違いありません。

《東海道五拾三次之内　蒲原　夜之雪》天保4年頃(1833)

歌川 広重

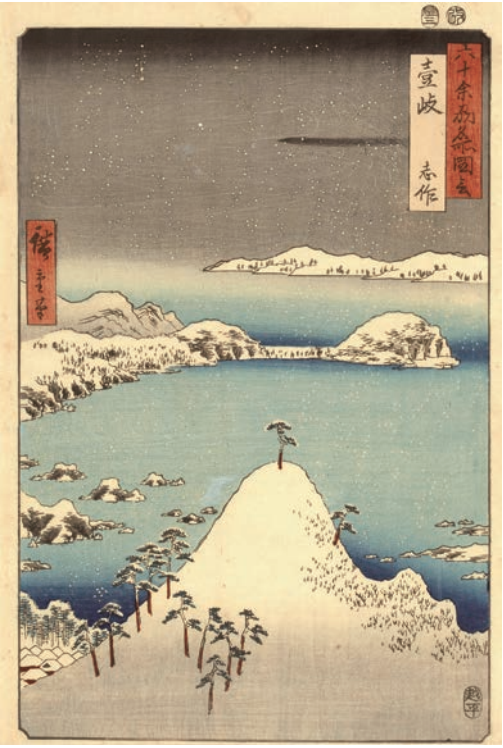
寛政 9 年～安政 5 年 (1797～1858)

本姓は安藤、俗称は徳太郎という。定火消同心・安藤源右衛門の子として江戸・八代州河岸に生まれた。13 歳の時に両親に先立たれ、若くして家督を継ぐ。しかし生来の絵好きから歌川豊広(1774～1830) に入門。長い修行の末、天保 3 年 (1832)36 歳のとき、京都旅行の際のスケッチをもとに翌々年、「東海道五拾三次」(保永堂版) 宿場図シリーズを発表し大ヒット、出世作となる。以来、江戸の名所は 言うに及ばず、地方の八景もの、富士山、道中ものなど日本国中の風光名媚な行楽地、名所が絵の対象となった。広重の絵には自然の美をたたえ、雪月花の風雅を愛で、人間の哀しさ、旅のわびしさなどセンチメンタルな人情の機微が織り込まれ、江戸人の生活を詩的に表現している。安政 5 年 9 月 6 日、流行のコロリ (コレラ) を患って急死。享年 62 歳。

本展覧会では、希少な広重の肉筆画も展示します。

《八朔太夫図（肉筆画）》
天保年間（1830-44）後期

広重が晩年に手がけた名作「六十余州名所図会」には、松浦半島から望んだ壱岐の島が描かれています。広重の目に映る壱岐島のすがたとは――。



《六十余州名所図会　壱岐志作》
安政 3（1856）年

【関連企画】広重グッズ特設販売コーナー

復刻木版画の受注販売、ポストカード、文房具、
衣類、生活雑貨、書籍など

■第55回特別企画展「広重展　東海道五拾三次と雪月花　叙情の世界」

会期/令和3年7月16日（金）～令和3年9月12日（日）

場所/一支国博物館 1階 テーマ展示室

観覧料/一般600円、小中高生400円、未就学児 無料、年間パスポート提示 無料、
障がい者手帳保持者および介助者1名 無料

会期中の休館日/7月19日（月）、9月6日（月）　※夏休み期間は毎日開館

展示品数/約60点

主催/壱岐市立一支国博物館

監修/中右瑛（国際浮世絵学会常任理事）

企画協力/ステップ・イースト

後援/壱岐市、壱岐市教育委員会、長崎県埋蔵文化財センター、壱岐市観光連盟

マスク着用、検温、手指消毒など、感染症拡大防止の取り組みにご協力をお願い致します。

このリリースに関する
お問い合わせ

配信停止などご要望がございましたら、お知らせ下さい。

壱岐市立一支国博物館
担当：広報　松嶋

〒811-5322
長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 515 番地 1
TEL：0920-45-2731　FAX：0920-45-2749
m.matsushima@iki-haku.jp